

障害者ケアに光

社会福祉法人旭川荘（岡山市北区祇園）は1956年、財團法人旭川荘の設立認可を受け10日、岡山市で創立60周年記念式典を開く。創立者川崎祐宣氏の医師が福祉施設の施設長になつて障害者に医療の光をあてようという考え方で医療福祉の実践といつ先駆的な取り組みが始まった。理事4人が医療と福祉が一体となつた60年の歩みを振り返る。

旭川荘60周年座談会

旭川荘理事長
末光 茂氏



川崎祐宣（1904～1996）
鹿児島県に生まれ、七高造士館、岡山医大卒。岡山市立病院外科医長を経て1939年、外科川崎病院開設。56年、旭川荘創立、理事長就任。70年、学校法人川崎学園を創立し理事長になり川崎医科大学を開学。岡山県名譽県民。

江草安彦（1926～2015）
笠岡市に生まれ、誠之館中學、岡山医大医学専門部卒。岡山大医学部小児科教室勤務後、旭川荘の創立に参加、1957年旭川学園園長、67年旭川兒童院院長、85年旭川荘理事長。91年川崎医療福祉大学学長。岡山県名譽県民。

ノーマライゼーション推進

黒住教教主
黒住 宗晴氏



若い人たちへ創立精神継承

医学部に在学中で旭川荘の画が具体化し、開設した時期です。「建設予定の候補地を見回るのでお前も付いて来い」と言われば、川崎病院院長車に同乗、東山から奥市の山平井の成徳学校南側、祇園の旭川河川敷へ行き、必要な広さがあるか、市街地からの距離、道路とのつながりなどを確認しました。最終的には祇園に絞られたが川が汚染されないかという心配の声が出て、難しい時期もあったが、多くの方々の助けで理解が進み、決定にこぎ着けました。

越宗 それぞれ、出会いと別れがありました。私は記者時代の81年、デンマークヘバンクミケルセン氏の取材に一緒に行つていただき、公私ともに親密なおつきあいが始まりました。先生は「先見性のある優れた実践家」だったと思っています。

末光 医療福祉の理念の確立と実践、そしてノーマライゼーションの推進、この二つは功績として挙げられる。

川崎 学校法人川崎学園と

旭川兒童院は旭川荘

開設10周年の時でした。県民

の支持を得て大きなエネルギーとなり旭川荘は躍進の時代

でした。江草先生は黒住、末

光氏という心強い応援団、後

継者と出会っていたのですね。

末光 川崎祐宣先生と江草

先生が師弟関係を結んだよう

に、江草先生は人生のすべて

において師でありました。医

師のイロハから、論文の書き

方、施設運営、組織の長とし

ての在り方を厳しく指導され

先生のあと、児童院長、理事

長として私なりに懸命に走つ

てきました。師を失い茫然自

じました。

黒住 創立者川崎祐宣氏の

精神の継承に励み、若い人た

ちへ伝えて行ったことも立派

だった。それが医療福祉の進

展につながった。

越宗 さて旭川荘60年の歩

みを振り返って見ると、建設

予定地の決定、理事の人選、

総合施設の在り方などで開設

時、いろいろ苦労があつたよ

うですね。

川崎 私は52年から岡山大